

学生の読書活動を促す「点検読書」の実践

峰 本 義 明

Practice of " Inspectional Reading" to encourage
students' reading activities

Yoshiaki Minemoto

1. 研究の背景と目的

1.1. 読書活動における「選書の力」の重要性

学生の「読む力」を伸ばさせるのは国語教育の重要な目的の1つである。その「読む力」を伸ばさせる効果的な方法として読書は欠かせないものであろう。そこで、学生の読書活動を促す方法を探るのは必要なことである。

読書活動を促す方法として重視すべきことは「選書の力」を養うことである。吉田 (2010)¹⁾はリーディング・ワークショップを説明する中で「読む本の選択」の重要性について下記のように述べている。

「自分が読みたい本を読む」ことにもすでに触れました。これも、読むことを好きになり、かつ読む力をつけるためには不可欠なことで、これまでの国語教育に欠落している点です。「読みたい本を読む」ために欠かせないことは「自分にあった本を選ぶ」ことですが、リーディング・ワークショップでは特にこれを重視しています。これこそが、人生を通して読み続ける際に最も大切な力であることを認識しているからです。(p71)

確かに、従来の国語教育では「良書の紹介」は様々な機会にするものの、子どもが「自分にあった本」を選ぶにはどうすれば良いかということについてはほとんど触れてこなかったと思われる。そこで、学生が自分にあった本を自分で選べるようになる「選書の力」を養うことが、学生の読書活動を促進させるための有効な方法になると考える。

その「選書の力」を養う方法の一つとして近年行われてきているのが「点検読書」である。

1.2. 「点検読書」とは

「点検読書 (Inspectional Reading)」とはM.J.アドラー・C.V.ドーレンの『本を読む本』(1978)²⁾に紹介されているものである。この本の中では読書の4つのレベルとして「初級読書」「点検読書」「分析読書」「シントピカル読書」を挙げており、「点検読書」はその第2レベルに当たる。「点検読書」は「組織的な拾い読み、または下読み」(p40)とされ、「いま手にしている本をさらに入念に読む必要があるかどうかを調べること」を目的とした読み方であり、手にしている本の以下の部分を点検するものである(pp.40

～43：傍点は原文のまま)。

- ① 表題や序文を見ること
- ② 本の構造を知るために目次を調べる
- ③ 索引を調べる
- ④ カバーに書いてあるうたい文句を読む
- ⑤ その本の議論のかなめと思われるいくつかの章をよく見ること
- ⑥ ところどころ拾い読みしてみる

この点検読書を読書教育の授業に導入する例が近年行われてきている。押木 (2012)³⁾ は勤務先の高校1年生を対象として、小説42タイトル・新書21タイトルの点検読書を授業内で行なった。その際に「標題紙、まえがきの有無、目次の有無、本文、あとがきの有無、参考文献の有無、索引の有無、奥付、著者紹介、その他」の10項目で点検をするようにしている。また、鹿児島県総合教育センター (2019)⁴⁾ では点検読書ワークシートをWeb上で公開しており、授業内で利用できるようになっている。さらに、石川県立図書館 (2023)⁵⁾ においては、埼玉県司書の木下通子による点検読書ワークショップを開催し、未読の新書を点検する活動を行なっている。

こうした動きを通して、点検読書を行うことによって学生がまだ触れたことのない本に出会わせることができるとともに、手元の本が熟読するに値するかどうかを短時間で見極める方法に慣れ親しむことによって、学生の「選書の力」を伸長させ、その結果として読書活動を促進させることが期待できる。

1.3. 研究目的

そこで、本研究の目的は下記のとおりである。

資料1 押木教諭の点検読書ワークシート

| 点検読書 (新書を点検しよう) | | 氏名 |
|--|------------------------|----|
| I 一冊の新書を選び、点検してみよう | | |
| ①書名 | ②著者 | |
| ③出版社 | ④発行年 | |
| ⑤まえがき ある / ない | ⑥あとがき ある / ない | |
| ⑦目次 ある / ない | ⑧索引 ある / ない | |
| ⑨参考文献一覧 ある / ない | ⑩著者紹介 ある / ない | |
| II この本を通して著者が何を伝えたいのか。「まえがき」「あとがき」等を読んで、要旨を3行でまとめてみよう。 | | |
| _____ | | |
| _____ | | |
| _____ | | |
| III あなたはこの本を読みたいですが、今は読みませんか？ | | |
| すぐ読みたい / 時間があったら読む / 読まない | | |
| 理由を書いてみよう。 | | |
| _____ | | |
| _____ | | |
| _____ | | |
| _____ | | |

- ① 短期大学において点検読書を導入した授業を開発し、実施する
- ② 受講する学生にアンケート調査を行うことによって点検読書の効果を分析し、今後の教育活動に資する知見を得る

2. 研究方法

本研究では、筆者が担当する教養 I (国語) の授業において点検読書を導入した授業を開発し、実施する。その際には新潟県立三条高等学校の押木和子教諭の協力によって提供された点検読書の授業ワークシート (資料1参照) を参考にする。

その授業時に、受講する学生を対象としたアンケート調査を実施する。Googleフォームを用い、授業終了時に回答させる。質問項目は点検読書を実際に行った段階でのものと普段の読書生活のものと2種類を用意した (資料2)。

このうち、「2. 普段の読書生活について」の

資料2 本研究でのアンケート項目

1. 今日の「小説の点検読書」について

(1) 下記の質問について、「そう思う＝5」「まあそう思う＝4」「どちらともいえない＝3」「あまりそう思わない＝2」「そう思わない＝1」で回答してください。

- ① 本をすぐに選ぶことができた
- ② 読むときは集中して読むことができた
- ③ 自分が選んだ本を続けて読みたくなった
- ④ 友人との本の紹介で興味深い小説を見つけることができた
- ⑤ 授業で知った本を読みたくなった

(2) 今日の「小説の点検読書」の授業についての感想を自由に書いてください。

2. 普段の読書生活について

(1) 下記の質問について、「そう思う＝5」「まあそう思う＝4」「どちらともいえない＝3」「あまりそう思わない＝2」「そう思わない＝1」で回答してください。

- ① 本を読むことは好きだ
- ② 本を読むことは得意だ
- ③ 自分の読みたい本をすぐに見つけることができる
- ④ 本を読むときは集中して読んでいる
- ⑤ 本を読み終えて、次に読みたい本を探すことができる
- ⑥ 友人と本の話をして読みたいと思う本を見つけている
- ⑦ 読書を続けたいと思っている

(2) 最近1年間の読書冊数

- ① 0冊
- ② 1年に1～5冊
- ③ 1年に5～10冊程度
- ④ 1年に10冊以上

(3) 本を読むことの良さは何だと思いますか。自由に書いてください。

質問項目の回答状況を用いて、学生の読書の実態について分析する。また、「1. 今日の「小説の点検読書」について」の質問項目(1)の①～④と「2. 普段の読書生活について」の質問項目(1)の③～⑥はそれぞれ対応関係にある項目とした。これらの項目について1要因参加者内分散分析を行なって点検読書の授業効果を分析する。また、1の質問項目(2)の本実践授業への感想についての自由回答の内容を計量テキスト分析の手法で分析する。

なお、本研究ではアンケート調査を行うが、アンケートの目的が研究であることを伝えて回答者に不利益にならないようにするなどの倫理的配慮を行う。

3. 実践の概要

3.1. 対象・実施時期

実践の対象はNS短期大学幼児教育学科1年生102名である。対象の授業は筆者が担当する教養Ⅰ(国語)である。なお、この授業は受講生102名を前半・後半の2グループに分け、それぞれ45分程度の授業を年間にわたって30回行なっている。本実践はその第25回にあたり、実施時期は2023年12月である。

3.2. 学生の読書の実態

本授業実践を行った後、資料2のアンケート調査を行った。このうち、「2. 普段の読書生活について」の回答を分析して、学生の読書の実態について考察する。回答数は102名中95名である。有効回答率は

93.14%であった。

質問項目（2）の最近1年間の読書冊数を集計した結果、0冊が11名（11.6%）、1年に1～5冊が71名（74.7%）、1年に5～10冊程度が10名（10.5%）、1年に10冊以上が3名（3.2%）となった（図1参照）。

これを見ると、やはり学生の読書冊数は少ないと言わざるを得ない。1年に1～5冊とは、多く見積もっても2ヶ月に1冊読むかどうか、という状態である。それが学生全体の7割を占めている。さらに0冊、すなわち本を全く読まないという学生が11名いる。2つを合わせて82名

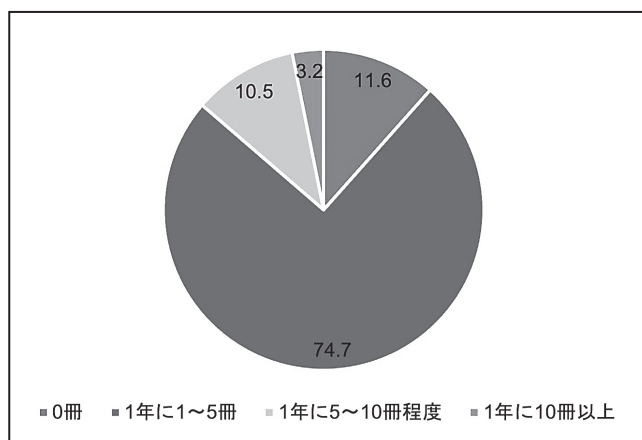


図1 NS短大1年生の年間読書冊数

（86.3%）が読書冊数において課題を抱えていると言える。

その原因として考えられることが「本の読み方を知らない」ということである。アンケートの「2. 普段の読書生活について」の1) の質問項目における「① 本を読むことは好きだ」と「② 本を読むことは得意だ」の2項目の回答結果を集計したところ、①については平均点=3.5263、S.D.=1.2883であり、②については平均点=3.0211、S.D.=1.2647であった（図2参照）。「② 本を読むことは得意だ」の方が平均点が低いため、読書を好きだと思う反面、その読書を主体的・意識的に行なっているかどうかについては疑問が残る結果となった。

そこで、このことをさらに確認するために、回答結果について1要因参加者内の分散分析を行なった。分析にはjs-STAR XR+ release1.9.6j⁶⁾を用いた。その結果、2つの差は1%水準で統計的に有意であった

($F(1,94)=44.06, p<.01$)。よって、②の平均点が下がっていることが統計的に有意であるため、学生は読書自体は好きであるものの、その読書を主体的・意識的に行うための方法を自分なりに習得しているとは言い難いことが示唆される。

このことから、本の読み方の第2レベルである点検読書を学生に紹介して実践させることは、学生の読書に関する意識を向上させ、そのことにより学生の読書活動が促進されることが期待できる。

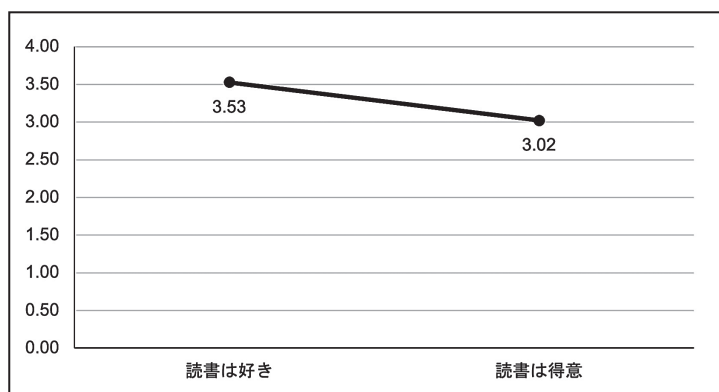


図2 質問項目2-①と2-②の平均点

3.3. 授業計画

本研究の対象となる授業では2023年7月に新書を対象とした点検読書を導入した授業を実践している。今回分析する実践授業は点検読書としては2回目であり、2023年12月に実施したものである。対象は小説とし、45分間で行った。

資料3 点検読書用小説リスト

| | |
|--|--|
| 1 ミカドの淑女 / 林真理子 著.-- 新潮社, 1990.9. | 37 おらおらでひとりいぐも / 若竹千佐子著.-- 河出書房新社, 2017.11. |
| 2 精霊の守り人 / 上橋菜穂子作 ; 二木真希子絵.-- 偕成社, 1996.7. | 38 患者のエンドロール / 米澤穂信 [著]. -- 角川書店, 2002.8. |
| 3 図書館戦争 / 有川浩著.-- メディアワークス, 2006.3.5. | 39 陸王 / 池井戸潤著.-- 集英社, 2016.7. |
| 4 ゆれる / 西川美和著.-- ポプラ社, 2006.6. | 40 連続殺人鬼カエル男 / 中山七里著.-- 宝島社, 2011.2. |
| 5 峠 / 司馬遼太郎著.-- 新潮社, 1993.6. | 41 彼女が好きなものはホモであって僕ではない / 浅原ナオト著.-- KADOKAWA, 2018.2. |
| 6 八日目の蝉 / 角田光代著.-- 中央公論新社, 2007.3. | 42 ライオンのおやつ / 小川糸著.-- ポプラ社, 2019.10. |
| 7 犬と私の10の約束 / 川口晴著.-- 文芸春秋, 2007.7. | 43 流浪の月 / 凧良ゆう著.-- 東京創元社, 2019.8. |
| 8 象の背中 / 秋元康著.-- 産経新聞出版, 2006.4. | 44 線は、僕を描く / 砥上裕將著.-- 講談社, 2019.7. |
| 9 鹿男あをによし / 万城目学著.-- 幻冬舎, 2007.4. | 45 残像に口紅を / 筒井康隆著.-- 中央公論社, 1995.4. |
| 10 蟹工船 / 小林多喜二著.-- 岩波文庫, 2003.6. | 46 破局 / 遠野遥著.-- 河出書房新社, 2020.7. |
| 11 恋愛中毒 / 山本文緒 [著]. -- 角川書店, 2002.6 | 37 雲を紡ぐ / 伊吹有喜著.-- 文藝春秋, 2020.1. |
| 12 とんび / 重松清著.-- 角川書店, 2008.10. | 48 楽園の鳥 / 阿部智里著.-- 文藝春秋, 2020.9. |
| 13 悪人 / 吉田修一著.-- 朝日新聞社, 2007.4. | 49 小説8050 / 林真理子著.-- 新潮社, 2021.4. |
| 14 シャベレどもしゃべれども / 佐藤多佳子著.-- 新潮社, 2000.6. | 50 三十の反撃 = The counterattack of thirty / ソンウァンピョン著 ; 矢島暁子訳. |
| 15 ペンギン・ハイウェイ / 森見登美彦著.-- 角川書店, 2010.5. | 51 いのちの停車場 / 南杏子 [著]. -- 幻冬舎, 2021.4. |
| 16 食堂かたつむり / 小川糸著.-- ポプラ社, 2010.1. | 52 闇城 = Yami-hara / 辻村深月著.-- KADOKAWA, 2021.10. |
| 17 舟を編む / 三浦しをん著.-- 光文社, 2011.9. | 53 黒牢城 : Arioka Citadel case / 米澤穂信著.-- KADOKAWA, 2021.6. |
| 18 リング / 鈴木光司 [著]. -- 角川書店, 1993.4. | 54 同志少女よ、敵を撃て / 逢坂冬馬著.-- 早川書房, 2021.11. |
| 19 世界から猫が消えたなら / 川村元気著.-- マガジンハウス, 2012.10. | 55 俺ではない炎上 / 浅倉秋成著.-- 双葉社, 2022.5. |
| 20 桜ほうさら / 宮部みゆき著.-- PHP研究所, 2013.3. | 56 宙 (そら) ごはん / 町田そのこ著.-- 小学館, 2022.6. |
| 21 よだかの片想い / 島本理生著.-- 集英社, 2013.4. | 57 水たまりで息をする / 高瀬隼子著.-- 集英社, 2021.7. |
| 22 グラスホッパー / 伊坂幸太郎 [著]. -- 角川書店, 2007.6. | 58 ホワイトカメラ / Miyamu作 ; yasuna画.-- 講談社, 2022.2. |
| 23 山女日記 / 湊かなえ著.-- 幻冬舎, 2014.7. | 59 仮面の告白 / 三島由紀夫著.-- 新版.-- 新潮社, 2020.11. |
| 24 こちらあみ子 / 今村夏子著.-- 筑摩書房, 2011.1. | 60 親父の納棺 / 柳瀬博一著 ; 日暮えむ絵.-- 幻冬舎, 2022.8. |
| 25 人間失格 / 太宰治著.-- 集英社, 1990.11. | 61 古本食堂 / 原田ひ香 [著]. -- 角川春樹事務所, 2022.3. |
| 26 ナイルパールの女子会 / 柚木麻子著.-- 文藝春秋, 2015.3. | 62 掟上今日子の忍法帖 / 西尾維新著.-- 講談社, 2022.6. |
| 27 ポイズンドーター・ホーリーマザー = Poison daughter, holy mother / 湊かなえ著.-- 光文社, 2016.5. | 63 水平線 / 滝口悠生著.-- 新潮社, 2022.7. |
| 28 みかづき / 森絵都著.-- 集英社, 2016.9. | 64 街とその不確かな壁 / 村上春樹著.-- 新潮社, 2023.4. |
| 29 クローバーナイト / 辻村深月著.-- 光文社, 2016.11. | 65 魔女と過ごした七日間 / 東野圭吾著.-- KADOKAWA, 2023.3. |
| 30 蜜蜂と遠雷 / 恩田陸著.-- 幻冬舎, 2016.9. | 66 ハンチバック / 市川沙央著.-- 文藝春秋, 2023.6. |
| 31 マチネの終わりに / 平野啓一郎著.-- 毎日新聞出版, 2016.4. | 67 この夏の星を見る = Catching the stars of this summer / 辻村深月著.-- KADOKAWA, 2023.6. |
| 32 ミッドナイト・バス / 伊吹有喜著.-- 文藝春秋, 2016.8. | 68 世界でいちばん透きとおった物語 / 杉井光著.-- 新潮社, 2023.5. |
| 33 明治ガールズ : 富岡製糸場で青春を = Meiji girls / 藤井清美著.-- KADOKAWA, 2017.6. | 69 隣人X / バリュースあや子著.-- 講談社, 2020.8. |
| 34 吾輩は猫である / 夏目漱石著.-- 改版.-- 新潮社, 2003.6. | 70 勁草 / 黒川博行著.-- 徳間書店, 2017.12. |
| 35 かがみの孤城 / 辻村深月著.-- ポプラ社, 2017.5. | 71 女子大小路の名探偵 = Detective of Joshidaikoji / 秦建日子著.-- 河出書房新社, 2021.9. |
| 36 屍人荘の殺人 / 今村昌弘著.-- 東京創元社, 2017.10. | |

また、本授業実践のために勤務校の図書課に依頼し、点検読書に使用する小説71冊を選定していただいた（資料3参照）。条件としては、①短大生が興味を持ってそうなもの、②いわゆる名作、③大家と言われる小説家の作品、④話題となった新しいもの、など多様なラインアップとなるようにした。できるだけ学生が読んでいない小説であり、かつ興味を持って読めるものを選んでいただいた。

3. 4. 授業実践

授業の流れは以下の通りである（表1参照）。授業では、出席確認の後に点検読書の説明をし、本の基本情報を確認する際にどこを見るべきかを教えた。

次に、用意した小説72冊を机上に並べ、学生には表紙だけを見て読みたいと思う本の候補を考えさせた。合図とともに学生に読みたい本を手にとらせ、15分間で読みながら、用意した「小説の点検読書ワークシート」（資料4参照）を埋めていくよう指示した。

表1 点検読書の授業の流れ (45分間)

| 所用時間 | 指導内容 | 留意点 |
|------|-------------------|--------------------|
| 2 分 | 出席確認 | |
| 3 分 | 点検読書の説明 | |
| 5 分 | 読みたい小説の選択 | 本に手を触れず、表紙だけで判断させる |
| 15 分 | 点検読書開始 | |
| 15 分 | 小グループでお互いに読んだ本の紹介 | |
| 5 分 | 今日の授業のふりかえりの記入・提出 | アンケート調査も行う |

資料4 小説の点検読書のワークシート

小説の点検読書ワークシート

1 小説を1冊選び、点検しよう。

| | |
|-------|-------|
| ① 書名 | ② 著者 |
| ③ 出版社 | ④ 発行年 |

2 自分が読み進めた部分までのあらすじ(2～4行程度の簡単なもので良い)

3 友人に紹介したいポイント(箇条書き可)

-
-
-
-
-

4 あなたはこの本をさらに読んでみたいですか？

すぐ読みたい / 時間があったら読みたい / 読まない

その理由を書いてみよう。

15分後、周囲の学生と3～4人でグループを組ませ、各自が点検した小説について1人あたり5分間程度で紹介させ合った。

最後に授業のふりかえりを書かせるとともに、アンケート調査に協力を依頼した。

4. 結果と考察

資料2のアンケート調査のうち、「1. 今日の「小説の点検読書」について」の質問項目1)の①～④と「2. 普段の読書生活について」の質問項目1)の③～⑥とはそれぞれ対応している項目である。そこで、これらの質問項目において「2. 普段の読書生活について」の回答結果を「授業前」とし、「1. 今日の「小説の点検読書」について」の回答結果を「授業後」として、授業前

と授業後の変化について1要因参加者内の分散分析を行った。分析にはjs-STAR XR+ release1.9.6jを用いた。表2はその平均点、S.D.、分散分析の結果を一覧にしたものである。

表2 アンケート項目の平均点、S.D.、分散分析の結果

| 質問項目 | 平均点 | | S.D. | | F比 | p |
|---------------------|------|------|------|------|-------|----|
| | 授業前 | 授業後 | 授業前 | 授業後 | | |
| ① 本をすぐ選ぶことについて | 3.51 | 4.32 | 1.14 | 0.98 | 42.95 | ** |
| ② 読書時の集中について | 4.02 | 4.35 | 1.06 | 0.95 | 11.76 | ** |
| ③ 読書した本への関心について | 3.17 | 4.17 | 1.12 | 1.13 | 62.01 | ** |
| ④ 友人からの本の紹介への関心について | 3.07 | 4.16 | 1.35 | 0.99 | 53.74 | ** |

+ p<0.1、* p<0.05、** p<0.01

この結果、①～④の全ての項目において、平均点は授業後の方が上昇した。分散分析の結果、これらの上昇はどの項目においても1%水準で統計的に有意であった。このことから、本研究における点検読書を導入した授業実践は学生の読書に対する態度を向上させたことが示唆される。

ただ、本研究で実施したアンケート調査は厳密に授業前と授業後の回答を比較したものではないことを考慮する必要がある。また、点検読書を経験した後で点検読書そのものについての態度変化について回答させた結果、質問項目の結果全てが向上するのはある意味で当然と言える。

そこで、アンケート調査の「1. 今日の「小説の点検読書」について」の質問項目2の「今日の「小説の点検読書」の授業についての感想を自由に書いてください」に回答された91件の自由回答について計量テキスト分析の手法で分析することとした。分析にはKH-Coder⁷⁾を用いた。この自由回答の頻出語一覧(3回以上)を表3に示す。

表3 小説の点検読書に関する自由解答の頻出語一覧(3回以上)

| 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 | 抽出語 | 出現回数 |
|-----|------|-------|------|------|------|
| 読む | 157 | 進める | 9 | 少し | 4 |
| 本 | 119 | 他 | 9 | 少ない | 4 |
| 思う | 63 | 読める | 9 | 大事 | 4 |
| 小説 | 40 | 普段 | 9 | 展開 | 4 |
| 面白い | 40 | 話 | 9 | 入る | 4 |
| 選ぶ | 31 | あら | 8 | 部分 | 4 |
| 時間 | 28 | 映画 | 8 | 物語 | 4 |
| 自分 | 26 | 集中 | 8 | 分かる | 4 |
| 表紙 | 22 | 興味 | 7 | 名前 | 4 |
| 見る | 21 | 見つける | 7 | たくさん | 3 |
| 気 | 18 | 今回 | 7 | ほか | 3 |
| 続く | 18 | 知る | 7 | 音楽 | 3 |
| 感じる | 17 | 短い | 6 | 行く | 3 |
| 内容 | 16 | ジャンル | 5 | 死体 | 3 |
| 人 | 14 | 久しぶり | 5 | 借りる | 3 |
| 友達 | 14 | 初めて | 5 | 主人公 | 3 |
| 最初 | 12 | 想像 | 5 | 出る | 3 |
| 手 | 12 | 多い | 5 | 触れる | 3 |
| 紹介 | 12 | 短時間 | 5 | 世界 | 3 |
| 難しい | 12 | 話す | 5 | 題名 | 3 |
| 聞く | 12 | グループ | 4 | 読書 | 3 |
| 楽しい | 11 | ミステリー | 4 | 怖い | 3 |
| 機会 | 11 | 今日 | 4 | 冒頭 | 3 |
| 授業 | 11 | 最近 | 4 | 理解 | 3 |
| 好き | 10 | 出来る | 4 | 良い | 3 |
| 取る | 10 | 書く | 4 | | |

この頻出語のうちの「選ぶ」という語に注目し、どのような文脈で出現しているのかを探るためにKWICコンコーダンスを出力させた(表4参照)。「選ぶ」の出現回数は31回で、比較的多いと言える。

この内容を見ると、「普段選ばないような本を選んでみました」「自分が選んだ本も内容は難しかったもののあまり読まないジャンルで面白そうだったので」「表紙だけで選んだけどとても面白い本だった」「選んだ本の決め手となったのは表紙だった」「聞いたことがあったので選びました」「SNSと関連した本を選んで人がいて、面白いなと感じた」「本のタイトルだけで選んで」など、点検読書で読む本を選ぶ際に学生は自己の行動を意識的にコントロールしている様子が伺える。

また、「友達が選んでいた本が気になったので読んでみたいと思った」「友達が選んだ本で、一番気に

表4 「選ぶ」を中心としたKWICコンコーダンス

| L | C | R |
|---|----|--|
| があったら多くの本を読んでみたい◇今回は、表紙をさっさと見て本を | 選ん | だから、表紙で自分の本をきめた。読み進めると、読んだことのない本で今後 |
| て良かった◇読みたい本がいっつかあったけど、取られてしまって、残り物から | 選ん | だけど、読み進めていけば面白い本だと思った。音楽の話で、私は音楽が |
| しまったとき、お互いが逃げずにコミュニケーションをとることが大切だと感じた。◇普段 | 選ば | ないような本を選んでみました。最初だけしか読めなかったけど、最初からははらどきどきし |
| 逃げずにコミュニケーションをとることが大切だと感じた。◇普段選はないような本を | 選ん | てみました。最初だけしか読めなかったけど、最初からははらどきどきしました。友達が選ん |
| 選んでみました。最初だけしか読めなかったけど、最初からははらどきどきしました。友達が | 選ん | だ本で、一番気になったのは、「連続殺人鬼かえる男」で、死体に変 |
| みて興味がわき、時間があったら読もうと思いました。◇最後の方に | 選び | に行ったので、選べる本が少ない中見つけた本だったけど、難しい内容ではなかったの |
| 自分がいちから見つけるよりも、人からおすすめされたものやある程度絞られているところから | 選ぶ | 方が本を読んでみようと思ひやすいと感じた。◇今日初めて手にした |
| た。冒頭から引き込まれる作品だったので読んで面白かったです。◇私が | 選ん | だ本は読んだところまでで物語が進まなかったため内容に関してはあまり理解できませんでした |
| カエル男」という表紙が気に入り読んでみたいと思ったが、他の人が先に | 選ん | で読めなかったので授業外で読みたいと思う。自分が選んだ本も内容は難しかったもの |
| が、他の人が先に選んで読めなかったので授業外で読みたいと思う。自分が | 選ん | だ本も内容は難しかったもののあまり読まないジャンルで面白そうだったので、続きを読みたい |
| この本を借りて読みたいと思った。◇あまり読まないような本を表紙だけで | 選ん | だので、本を読み進めたら、正直難しい本でした。恋愛をしたことがないから共感 |
| かもしれません。大人になったら読んでみたくなると思いました。◇自分が | 選ん | だ小説を読んでみて、読み始めたときにその本の世界観が入りやすかった。それ |
| 。人に紹介するために内容をまとめたりする力も付くと感じた。◇私が | 選ん | だ本は救急救命センターについての本で途中まで読んだがすごく面白かった。班の人たちと |
| に孤城という本がすごく面白そうで読んでみたいと思った。◇表紙だけで | 選ん | だけどとても面白い本だった。区切りのいいところで終わってしまったのでまた続きを読みたいと |
| たいと思った。◇自分の好きな本を読みたかったです。◇私の | 選ん | だ本は、まだ最初の方しか読めていないけれどとても続きが気になる本でした。 |
| は想像のつかない物語の本などがあり、興味深かった。◇用意された本を | 選ん | だだけだが、選んだ本の決め手となったのは表紙だった。カラフルな色でデザイン |
| の本などが、興味深かった。◇用意された本を選んだだけだが、 | 選ん | だ本の決め手となったのは表紙だった。カラフルな色でデザイン性があってことで |
| 。◇「かがみの孤城」という本を読みました。聞いたことがあったので | 選び | ました。映画化されているらしいので映画を見たいです。◇自分の読ん |
| て読みたいと感じる本がありました。◇ぱっと見て手に取って表紙だけで | 選ん | だ本なので読む気にならないかなと思ったけど、読んでいううちに楽しくなっ |
| になったので、機会があったときに読んでみたいと思います。◇私の | 選ん | だ本は、最初しかまだ読んでないが、面白く感じなかった。◇面白い本 |
| などする本は興味があるのでそういった本を沢山読めるといいなと思った◇表紙で | 選ん | て読んでみて、中身自体は面白いので読み進めたいとは思いますが、ほんわかした |
| や何らかの出来事に巻き込まれていく非日常感が好きだった。基本、私は初めての小説を | 選ぶ | とき、絵やイラストを見て決めている。自分の好きな絵柄や興味の持った表紙だけ |
| 、他の人が読んでいた本にととても興味が湧いた。SNSと関連した本を | 選ん | でいる人がいて、面白いなと感じた。私も見たいと思った。◇ |
| ◇普段は小説のような、長い本を触れる機会がないが今回の授業で自分の | 選ん | だ本の続きを読みたいと思えた。◇本のタイトルだけで選んで、最初の |
| 授業で自分の選んだ本の続きを読みたいと思えた。◇本のタイトルだけで | 選ん | で、最初のほうを読んだがよくわからなかった。普段本は読まないの、他の人 |
| 部分の中だけで他の人にあらすじを説明することが難しかった。◇自分が | 選ん | だ本がすごく面白くなくてほかの子が読んでいたのは面白そうでした。<h5>---cell--- |
| 出てきて、ミステリーが好きだったため、読み進めるのが楽しかったです。◇友達が | 選ん | でいた本が気になったので読んでみたいと思った。◇最近、 |
| してくれるとその本にも興味を持つことができる。◇表紙だけ見て本を | 選ぶ | のも意外な面白さがあって楽しかった◇畠山ゆうさんの「美しい彼」が |
| 共有する時にもなを話したら良いのか戸惑ってしまった。◇面白そうな本を | 選ぶ | のが苦手だから、ジャンルごとで机に並べたり先生のおすすめを紹介してから選ぶ時間に |
| 本を選ぶのが苦手だから、ジャンルごとで机に並べたり先生のおすすめを紹介してから | 選ぶ | 時間にしたりする選びやすいと思いました。◇もう少し恋愛系の本があったらいい |
| だから、ジャンルごとで机に並べたり先生のおすすめを紹介してから選ぶ時間にしたりする | 選び | やすいと思いました。◇もう少し恋愛系の本があったらいいと思いました。コロナ |

なったのは「カエル男」という表紙が気に入り読んでみたいと思ったが、他の人が先に選んで読めなかったので授業外で読みたいと思う」など、友人が選んだ本に対する関心が高まっている様子が伺えるものがあった。点検読書後にグループで選んだ本を紹介し合った効果が現れていると考えられる。

さらに、「残り物から選んだけど、読み進めていけば面白い本だと思った」「自分がいちから見つけるよりも、人からおすすめされたものやある程度絞られているところから選ぶほうが本を読んでみようと思ひやすいと感じた」「用意された本を選んだだけだが、選んだ本の決め手となったのは表紙だった」「表紙だけ見て本を選ぶのも意外な面白さがあって楽しかった」など、本実践授業における本の準備と提供の方法が学生の読書意欲を高めたことが伺える。

これらのことから、本実践によって学生の選書能力を高め、友人同士での本に対する関心を高め、個々の読書意欲を促す効果があることが示唆された。

5. 結論と今後の課題

本研究では小説の点検読書を導入した授業を開発して、実践することができた。また、アンケート結果の分析から、授業者が用意した本から学生に選ばせ、15分間で本の概要を点検しながら読み進めさせ、その本の内容について学生同士で紹介し合うという授業方法は学生の選書能力を高め、読書意欲を促す効果があることが示唆された。

ただ、今回の研究では授業実施前のアンケート調査を行うことができず、授業後の回答との十分な比較ができなかった。また、本実践授業の前に新書を対象とした点検読書の授業を行っており、その授業効果との影響や関連を分析することができなかった。今後の課題である。

注・参考文献

- 1) 吉田新一郎『増補版「読む力」はこうしてつける』、新評論、2017年
- 2) M.J.アドラー、C.V.ドーレン著（外山滋比古・槇未知子訳）『本を読む本』、日本ブリタニカ株式会社、1978年
- 3) 押木和子「新書と小説を比較する授業の試み」、先生のための授業に役立つ学校図書館活用データベース、東京学芸大学 学校図書館運営専門委員会、
<https://www2.u-gakugei.ac.jp/~schoolib/htdocs/index.php?key=muwme75ee-26>（2024年2月14日参照）
- 4) 「点検読書ワークシート」、鹿児島県総合教育センター、
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/kinkowan/docs/kyouzai_kaihatu/file_contents/086_tenkendokusyo.pdf（2024年2月14日参照）
- 5) 「【10月22日】探究学習で学校図書館を活用しよう！～点検読書ワークショップ～」、石川県立図書館、
<https://www.library.pref.ishikawa.lg.jp/category/event2023/3537.html>（2024年2月14日参照）
- 6) js-STAR XR+ release1.9.6j、<http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/puma/sa.htm>、（2024年2月14日参照）
なお、分析にあたっては下記の文献を参照した。
中野博幸・田中敏『フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析』、技術評論社、2012年
- 7) KH-Coder Version3.00
なお、分析にあたっては下記の文献を参照した。
樋口耕一、中村康則、周景龍『動かして学ぶ！ はじめてのテキストマイニング フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析』、ナカニシヤ出版、2022年